

千葉県におけるアカアシカツオドリ *Sula sula* の記録

平田和彦^{1),*}・小田谷嘉弥²⁾・白川浩一³⁾・黒田理生⁴⁾・神田義之⁵⁾・椎原路子⁴⁾・
澤本将太⁴⁾・森 颯人⁴⁾・桑原和之¹⁾

¹⁾千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町955-2

²⁾我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3

³⁾日本野鳥の会千葉県

〒273-0021 千葉県船橋市海神2丁目2-11 シャンブルレポ105

⁴⁾所属なし

⁵⁾JACSボートライセンススクール

〒133-0052 東京都江戸川区東小岩5丁目30-8

* E-mail: k_hirata@chiba-muse.or.jp

(2021年10月31日投稿)

要 旨 これまで千葉県では、詳細な情報を伴うアカアシカツオドリの記録がなかった。本稿は、過去の文献記録1件(1羽)に加え、1995年から2021年までに記録された4件(4羽)の保護事例と9件(10羽)の観察事例を確認し、整理したものである。14件のうち10件が2018年以降の記録であり、近年、飛来頻度は顕著な増加傾向にある。13件が東京湾奥部で記録された。4件(4羽)が高緯度海域では稀な成鳥、5件(6羽)が日本では少ない褐色型と考えられ、1件(1羽)が日本ではこれまでに学術報告のなかった黒尾白色型、珍しい複数個体(2羽)での記録も確認された。

キーワード : 迷鳥, 外洋性海鳥, *Sula sula*, 東京湾

アカアシカツオドリ *Sula sula* は、太平洋、インド洋、大西洋の熱帯および亜熱帯海域に分布するカツオドリ目カツオドリ科 Sulidae の鳥類である (Schreiber et al., 2020)。日本での確実な繁殖は、火山列島の南硫黄島で集団繁殖が確認されているほかは (川上ほか, 2018)、八重山諸島の仲ノ神島 (Kohno, 2000; 河野・水谷, 2017) と小笠原諸島の母島 (Chiba et al., 2007) で偶発的な営巣の記録があるのみである。非繁殖期にも繁殖地の周辺やその沖合に留まることが多く (中村・中村, 1995)、北海道から沖縄県八重山諸島までの広い範囲で観察例があるが、その大部分は偶発的な迷行である (日本鳥学会, 2012)。

日本鳥類目録改訂第7版 (日本鳥学会, 2012) には千葉県で迷鳥 (Accidental Visitor, AV) として掲載されている。しかし、その根拠とされたと考えられる文献記録には内湾での観察例であること (千葉県史料研究財団, 2000)、それが北海道航路のフェリーに迷行した個体であること (千葉県史料研究財団, 2003) を除いては、観察年月日や観察者などの基本的な情報を含めて一切示されておらず、千葉県における詳細を伴う確実な観察記録は報告されていなかった。

筆者らは、これらの文献記録 (千葉県史料研究財団,

2000, 2003) とは別に、千葉県における4件の保護・死体拾得事例および9件の生体の観察事例を確認したので、ここに整理して報告する。なお、観察事例のうち1件は千葉県野鳥の会 (2020) および行徳野鳥観察舎友の会 (2020)、別のもう1件は千葉県野鳥の会 (2021) によってすでに報告のあった個体である。

保護・拾得および観察の事例

アカアシカツオドリの成鳥には白色型、褐色型、白尾褐色型 (Nelson et al., 2005)、文献によっては黒尾白色型、金頭白色型、白頭白尾褐色型 (Carboneras, 1992) といった多様な羽色型が記載されている。本稿では、上記の2文献および田野井 (2020) を参考に、可能な限り羽色型と齢を識別し、確証が得られない個体についてはクエスチョンマークを付した。本種は生後3年目までに決定羽を獲得する (Schreiber et al., 2020)。齢は幼鳥、若鳥、成鳥の3段階で分類し、おおむね生後1年以内の全身幼羽のものを幼鳥、幼羽が残るなど若い鳥であることを示す特徴がある個体のうち、幼鳥ではない2-3年目のものを若鳥、決定羽を獲得していると考えられるものを成鳥とした。

【記録1】

観察日：不明（1971年頃）
 観察地：銚子沖～東京湾
 観察者：田久保晴孝ほか
 個体の特徴：不明 1羽
 死体・標本：なし
 写真：不明

備考：千葉県史料研究財団（2000, 2003）の根拠となった記録である。本個体に関してこれまで知られていた情報はきわめて断片的であったが（千葉県史料研究財団, 2000, 2003），最近になって、「50年ほど前」に千葉県初記録として観察されたことや「銚子あたりから東京湾まで船について来た」こと、観察者等の詳細な情報が明らかとなった（千葉県野鳥の会, 2021）。この記述より、観察日は不明ながらも1971年頃と括弧書きを付した。

【記録2】

観察日：1995年7月10日
 観察地：千葉市中央区登戸町（図1-A）
 保護・収容：千葉県環境局自然保護課
 個体の特徴：幼鳥 1羽

死体・標本：千葉県立中央博物館に本剥製標本として収蔵されている（標本番号CBMZB-1975）。
 計測値：全長730 mm，翼開長1450 mm，自然翼長398 mm，最大翼長406 mm，尾長161 mm，跗蹠長48.2 mm，全頭長155.0 mm，露出嘴峰長100.6 mm，体重689 g（桑原が標本製作前の死体を計測）。

写真：図2

備考：1995年7月10日に保護され，7月12日に死亡した。

【記録3】

観察日：2001年8月30日
 観察地：船橋市北本町1丁目（図1-B）
 保護・収容：行徳野鳥観察舎
 個体の特徴：白色型・成鳥 1羽

死体・標本：山階鳥類研究所に仮剥製標本および骨格標本として収蔵されている（標本番号：YIO-63414）。
 計測値：体重902 g。

写真：なし

備考：2001年8月30日に保護されたのち（カルテ番号：01-08-053），同日に死亡した。保護時，「右上腕骨開放骨折・出血多」の症状が認められた。なお，カルテには「1歳」と記録されていたが，標本より成鳥であると判断された。

【記録4】

観察日：2004年8月31日～9月1日
 観察地：千葉市美浜区打瀬 千葉市立海浜打瀬小学校（図1-C）
 保護・収容：行徳野鳥観察舎
 個体の特徴：・幼鳥 1羽

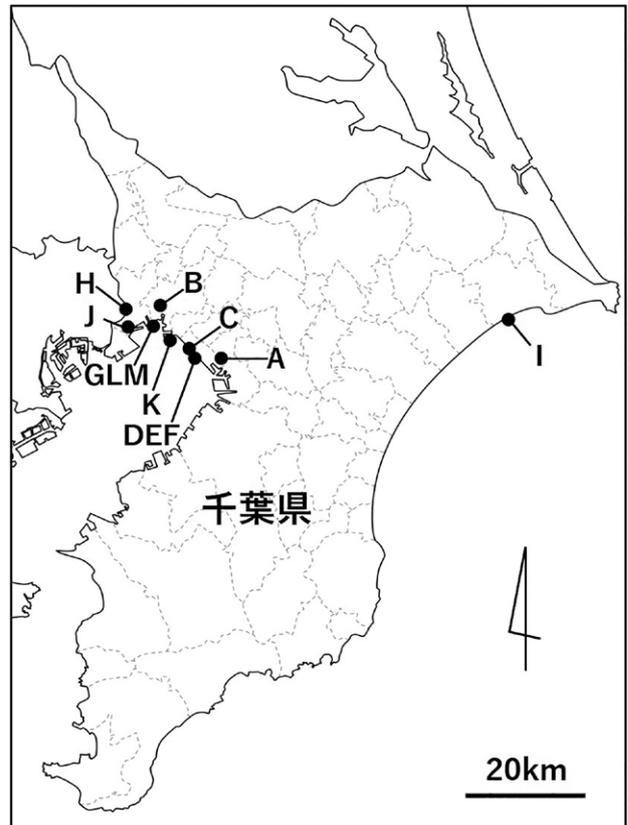


図1. 千葉県におけるアカアシカツオドリの観察地点。黒丸は観察地点，アルファベットは対応する記録を示す。なお，記録1については詳細不明かつ広域に及ぶため示していない。

死体・標本：千葉県立中央博物館に本剥製標本として収蔵されている（標本番号CBMZB-2518）。

計測値：全長701 mm，翼開長1475 mm，自然翼長391 mm，最大翼長403 mm，尾長181 mm，跗蹠長35.9 mm，全頭長134.9 mm，露出嘴峰長84.4 mm，体重525 g（桑原が標本製作前の死体を計測）。

写真：図3

備考：2004年9月1日に保護され（カルテ番号：04-09-001），9月2日に死亡した。死亡時の体重は498 gであった。初認日（8月31日）は，千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速31.0 m/s，最大風速19.4 m/sを記録した（気象庁, 2022）。

【記録5】

観察日：2018年8月24日
 観察地：千葉市美浜区高浜 検見川の浜（図1-D）
 観察者：白川浩一
 個体の特徴：白色型もしくは黒尾白色型・若鳥 1羽
 死体・標本：なし

写真：図4

備考：観察当日は，千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速22.7 m/s，最大風速14.6 m/sを記録した（気象庁, 2022）。

【記録6】

観察日：2018年10月1日
 観察地：千葉市美浜区高浜 検見川の浜（図1-E）
 観察者：白川浩一
 個体の特徴：褐色型・若鳥 2羽
 死体・標本：なし
 写真：図5
 備考：観察当日は、千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速41.1 m/s、最大風速26.0 m/sを記録した（気象庁、2022）。

【記録7】

観察日：2018年10月7日
 観察地：千葉市美浜区高浜 検見川の浜（図1-F）
 観察者：白川浩一
 個体の特徴：褐色型・成鳥? 1羽
 死体・標本：なし
 写真：図6
 備考：観察当日は、千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速22.6 m/s、最大風速13.8 m/sを記録した（気象庁、2022）。

【記録8】

観察日：2018年12月5日
 観察地：市川市東浜 三番瀬（図1-G）
 観察者：黒田理生
 個体の特徴：褐色型・若鳥 1羽
 死体・標本：なし
 写真：図7
 備考：観察前日は、千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速17.4 m/s、最大風速11.6 m/sを記録した（気象庁、2022）。

【記録9】

観察日：2019年6月24～26日
 観察地：市川市稲荷木 江戸川（図1-H）
 観察者：神田義之
 個体の特徴：白色型・成鳥 1羽
 死体・標本：なし
 写真：図8
 備考：付近に数日間滞在していた。確証があるのは6月24日以降だが、6月23日以前から飛来していた可能性がある。人をまったく恐れず、触れるほどの距離でも構わず休息していた（図8）。しかし衰弱した様子はなく、江戸川では飛び込み採餌が観察された。

【記録10】

拾得日：2019年8月29日
 拾得地：旭市中谷里（図1-I）
 拾得者：椎原路子
 個体の特徴：黒尾白色型・成鳥 1羽
 死体・標本：我孫子市鳥の博物館に本剥製標本として収

蔵されている（受入番号2019-054-001）。
 計測値：全長752 mm、翼開長1602 mm、自然翼長409 mm、最大翼長423 mm、尾長217 mm、跗蹠長39.9 mm、全頭長149.4 mm、露出嘴峰長94.2 mm、体重963.7 g、脂肪量指標1（小田谷が標本製作前の死体を計測）。

写真：図9
 備考：砂浜海岸にて漂着死体として拾得された。拾得前日は、銚子地方気象台で最大瞬間風速17.7 m/s、最大風速11.6 m/sを記録した（気象庁、2022）。

【記録11】

観察日：2019年11月10日
 観察地：市川市新浜 行徳鳥獣保護区（図1-J）
 観察者：川上正敬
 個体の特徴：不明 1羽
 死体・標本：なし
 写真：不明
 備考：千葉県野鳥の会「行徳（新浜）探鳥会」において観察されたが（千葉県野鳥の会、2020）、その後は確認されなかった（行徳野鳥観察舎友の会、2020）。観察者は千葉県野鳥の会（2021）に記載があった。観察された3日前の11月7日には、千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速13.9 m/s、最大風速10.2 m/sを記録した（気象庁、2022）。

【記録12】

観察日：2020年7月1日
 観察地：習志野市茜浜（図1-K）
 観察者：白川浩一
 個体の特徴：褐色型・若鳥もしくは成鳥 1羽
 死体・標本：なし
 写真：図10
 備考：観察当日は、千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速23.9 m/s、最大風速15.6 m/sを記録した（気象庁、2022）。

【記録13】

観察日：2021年10月3日～
 観察地：船橋市潮見町・市川市東浜 三番瀬（図1-L）ほか
 観察者：田久保晴孝・澤本将太・森 颯人・黒田理生・平田和彦・桑原和之ほか
 個体の特徴：白色型もしくは黒尾白色型・若鳥 1羽
 死体・標本：なし
 写真：図11, 13
 備考：千葉県野鳥の会（2021）に写真付で報告のあった個体。初認日の前々日と前日は、千葉特別地域気象観測所で最大瞬間風速20.3 m/sと17.0 m/s、最大風速11.2 m/sと9.9 m/sを記録した（気象庁、2022）。初認の後、三番瀬周辺（図13）や浦安市日の出（図11）で同一と考えられる個体が観察されている。終認日は不明であ

る。

【記録14】

観察日：2021年10月30日～

観察地：船橋市潮見町・市川市東浜 三番瀬（図1-M）ほか

観察者：澤本将太・森 颯人・黒田理生ほか

個体の特徴：褐色型・若鳥 1羽

死体・標本：なし

写真：図12, 13

備考：2021年10月30日に澤本が観察したのが初認と考えられ、その際には記録13の個体と並んでブイに止まっているところの確認された。その後、三番瀬周辺（図13）や浦安市（図12）で同一と考えられる個体が観察されている。終認日は不明である。



図2. 千葉市中央区で保護された幼鳥の本剥製標本（標本番号CBMZB-1975）。



図3. 千葉市美浜区で保護された幼鳥の本剥製標本（標本番号CBMZB-2518）。嘴と脚はニスでコートされている。



図4. 千葉市美浜区で観察された白色型もしくは黒尾白色型若鳥（2018年8月24日，白川浩一撮影）。



図5. 千葉市美浜区で観察された褐色型若鳥2羽（2018年10月1日，白川浩一撮影）。



図6. 千葉市美浜区で観察された褐色型成鳥？（2018年10月7日，白川浩一撮影）。



図7. 市川市で観察された褐色型若鳥（2018年12月5日，黒田理生撮影）。

考察

本稿では、千葉県内で過去に記録されたアカアシカツオドリの4件の保護・死体拾得事例および10件の生体の観察事例を整理し、報告した。以下に、千葉県への飛来の要因、頻度、海域、観察された個体の特徴に関して考察を行う。

熱帯や亜熱帯海域の海鳥が通常の生息域を超えて北上するのは台風などの気象条件に起因することが多いとき

れている（水谷ほか, 2012）。本稿で報告した14件のうち8件（記録4, 5, 6, 7, 8, 10, 12, 13）は、観察地に近い観測所や気象台で最大風速が10 m/sを超えるような大風があった日から2日以内に記録されており（気象庁, 2022）、これらの強風の影響を受けて千葉県に迷行したと考えられる。

千葉県における本種の記録は、初めて確認されてから2018年までの約50年間にわずか4件しかなかったが、2018年以降の4年間に相次いで10件が確認された。その



図8. 市川市で観察された白色型成鳥（2019年6月26日，神田義久撮影）。



図9. 旭市で拾得された黒尾白色型成鳥の本剥製標本（受入番号2019-054-001）。嘴と脚は着色されている。



図10. 習志野市で観察された褐色型若鳥もしくは成鳥（2020年7月1日，白川浩一撮影）。



図11. 浦安市で観察された白色型もしくは黒尾白色型若鳥（2021年11月10日，森 颯人撮影）。



図12. 浦安市で観察された褐色型若鳥（矢印）（2021年11月10日，森 颯人撮影）。



図13. 市川市で同時に観察された白色型もしくは黒尾白色型若鳥（右の矢印）と褐色型若鳥（左の矢印）（2021年11月10日，黒田理生撮影）。

ため、近年、本種の飛来頻度は顕著な増加傾向にあると考えられる。また、2004年以前の飛来時期は夏季に集中していたが、2018年以降は冬季にも記録がある（記録8, 13, 14）。さらに、本種は亜熱帯海域を主な分布とするにもかかわらず、冬季に長期間滞在する例も確認されるようになっている（山本, 2022; 記録13, 14）。これらのことから、現在は迷鳥 (Accidental Visitor) とされている本種のスータス (日本鳥学会, 2012) が、今後見直される可能性がある。なお、飛来の頻度や季節、滞在期間等の変化の原因は不明である。

千葉県での本種の記録は、13件（記録1を含む）が確認された東京湾とその内陸部に集中し、太平洋では2件（記録1, 10）のみであった。千葉県内では迷行した外洋性海鳥類がしばしば観察される地域として銚子市が有名だが、カツオドリ *S. leucogaster* とアオツラカツオドリ *S. dactylatra* は観察されているものの、本種の記録はない（桑原ほか, 2006）。千葉県では本種の記録が東京湾に多く、太平洋に少ない理由は不明であるが、荒天に巻き込まれて千葉県周辺に迷行した個体が、外洋に比べて穏やかな東京湾奥部に強風を避けるように飛来し、留まった可能性が考えられる。

本稿で報告した14件（15羽）のうち、少なくとも4件（4羽）は成鳥（記録3, 7, 9, 10）と考えられた。これに対し、千葉県より高緯度の海域における国内の記録はほとんどが若齢個体であり（風間・佐藤, 2008; 小室, 2010; 佐藤・長谷川, 2011; 水谷ほか, 2012; 富田・成田, 2012; 宇山, 2012）、成鳥の記録はさきわめて稀で2例しかない（立花ほか, 2006; 田野井・田野井, 2019）。本種の迷行には気象条件だけでなく、夏期に繁殖に参加しない幼鳥や若鳥による北上分散も関わっている可能性が指摘されている（水谷ほか, 2012）。成鳥に比べて若齢個体のほうが、通常の生息域を超えて北上した際に、より高緯度まで迷行しやすい傾向があるのかもしれない。

日本で観察される本種の多くは白色型であり、これは日本（川上ほか, 2018）および周辺のハワイやミクロネシア（Pratt *et al.*, 1987; Harrison, 1990）の繁殖集団では白色型が優占しているためと考えられている（田野井・田野井, 2019）。褐色型は国内では2016年以降に観察例が増え始め、これまでに小笠原諸島以南の低緯度の海域を中心に12件が報告されている（田野井・田野井, 2019）。本稿の5件（6羽）の褐色型個体（記録6, 7, 8, 12, 14）は、岩手県宮古市（田野井・田野井, 2019）に次ぐ高緯度海域での記録である。千葉県では、1件（1羽）の黒尾白色型も記録された（記録10）。この羽色型は太平洋東部に繁殖する個体群に高頻度で見られ（Harrison *et al.*, 2021）、過去に国内での学術報告はない。ただし、黒尾白色型とされる個体は、2019年4月9日に北硫黄島沖で撮影された成鳥の写真が田野井（2020）に掲載されているほか、東京と父島を結ぶ航路において複数の目撃例がある（小田谷 未発表）。近年、白色型以外の記録が増えている理由は不明である。

ほとんどの記録は1羽単独であったが、1件のみ2羽で

観察された（記録6）。また、別々に同所に飛来したと考えられる2羽が、同時に観察される例もあった（記録13 および14）。カツオドリ科は繁殖地から離れた沖合では1羽から数羽で行動することが多いが（中村・中村, 1995）、これまでに報告された本種の迷行は1羽単独のものばかりで（e.g., 風間・佐藤, 2008; 水谷ほか, 2012; 富田・成田, 2012; 田野井・田野井, 2019）、複数個体での迷行例は珍しいと考えられる。

謝辞

本稿の執筆に際して有益な情報をご提供いただいた箕輪義隆氏、田久保晴孝氏に御礼申し上げます。

引用文献

- Carboneras, C. 1992. Family Sulidae (gannets and boobies). In: del Hoyo, J., A. Elliott A. & J. Sargatal. (eds.) Handbook of the Birds of the World. Vol 1, Ostrich to Ducks: 312-325. Lynx Edicions, Barcelona.
- Chiba, H., Kawakami, K., Suzuki, H. & K. Horikoshi 2007. The distribution of seabirds in the Bonin Islands, southern Japan. J. Yamashina Inst. Ornithol. 39: 1-17.
- 千葉県史料研究財団. 2000. 千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物 県史シリーズ46. 813 pp. 千葉県, 千葉.
- 千葉県史料研究財団. 2003. 千葉県の自然誌資料 千葉県産動物総目録. 378pp. 千葉県, 千葉.
- 千葉県野鳥の会. 2020. 行徳（新浜）探鳥会. 房総の鳥 (551): 11.
- 千葉県野鳥の会. 2021. 表紙の言葉 アカアシカツオドリ. 房総の鳥 (574): 3.
- 行徳野鳥観察舎友の会. 2020. 12・1月 保護区の鳥の様子～初記録！～. すずがも通信 (240) : 6.
- Harrison, C. 1990. *Seabirds of Hawaii*. 288 pp. Cornell University Press, New York.
- Harrison, P. 1985. *Seabirds*. 448 pp. Christopher Helm, London.
- 川上和人・鈴木 創・堀越和夫. 2018. 南硫黄島におけるアカアシカツオドリ *Sula sula* 集団営巣の国内初記録. 日本鳥学会誌 67: 249-252.
- 風間健太郎・佐藤雅彦. 2007. 北海道利尻島におけるアカアシカツオドリ *Sula sula* の飛来記録. 日本鳥学会誌 57: 30-32.
- 気象庁. 2022. 各種データ・資料. 過去の気象データ検索. <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>. (2022年1月1日閲覧)
- Kohno, H. 2000. Visits of immature Blue-faced and Red-footed Boobies to Nakanokamishima, south Ryukyus, Japan. Bull. Inst. Ocean. Res. Develop. Tokai Univ. 21: 111-117.
- 河野裕美・水谷 晃. 2017. アカアシカツオドリ. 沖縄県環境部自然保護課（編）改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版（動物編）-レッドデータ おきなわ-: 127. 沖縄県環境部自然保護課, 沖縄.
- 小室智幸. 2010. 2010年宮城県沖海鳥調査報告（概要）. 雁 244: 10-11.
- 桑原和之・三沢博志・箕輪義隆・野口一誠・繁倉 崇・奴賀俊光・高木 武. 2006. 銚子市鳥類目録. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 14: 71-147.
- 水谷 晃・村越未来・松崎 茂・山田智子・長嶺隆・河野裕美. 2012. アカアシカツオドリ若鳥の保護と長期飼育後の放鳥. Strix 28: 149-163.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>. 304 pp. 保育社, 東京.
- Nelson, J. B., J. Busby, A. Mackay & B. Teunis. 2005. *Pelicans, cormorants, and their relatives the Pelecaniformes*. 680 pp. Oxford University Press, Oxford.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録改訂第6版. 345 pp. 日本鳥学会, 帯広.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 438 pp. 日本鳥学会, 三田.
- Pratt, H., P. Bruner & D. Berrett. 1987. *A field guide to birds of Hawaii and the tropical Pacific*. 528 pp. Princeton University Press, Princeton.
- 佐藤晴子・長谷川正人. 2011. 2010年の知床・根室海峡における稀な海鳥6種の記録. 知床博物館研究報告 33: 43-49.
- Schreiber, E. A., R. W. Schreiber & G. A. Schenk. 2020. Red-footed Booby (*Sula sula*), version 1.0. In Birds of the World (S. M. Billerman,

- Editor). Cornell Lab of Ornithology, Ithaca, NY, USA. <https://doi.org/10.2173/bow.refboo.01>
- 高野伸二. 2015. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版. 392 pp. 日本野鳥の会, 東京.
- 立花繁信・三浦孝夫・佐藤賢二・佐藤由佳. 2006. 南三陸町におけるアカアシカツオドリの記録. 雁 219: 17.
- 田野井博之. 2020. Young Gunsの野鳥ラボ Season II #64アカアシカツオドリの羽色型と年齢の識別. BIRDER 34(7): 48-51.
- 田野井博之・田野井翔子. 2019. 東京都聳島列島沖および岩手県沖におけるアカアシカツオドリ *Sula sula* 褐色型の観察記録. 日本鳥学会誌 68: 383-387.
- 富田直樹・成田 章. 2012. 青森県蕪島におけるアカアシカツオドリ若鳥の観察記録. 山階鳥類学雑誌 44: 18-22.
- 宇山大樹. 2012. 野鳥の記録 東京～釧路航路の30年 1997年～1999年の調査を中心として. 255 pp. 自費出版, 東京.
- 山本綾子. 2022. 12月18日(土) 三番瀬・新浦安. はばたき (597): 11.

Records of the Red-footed Booby *Sula sula* in Chiba Prefecture

Kazuhiko HIRATA^{1),*}, Yoshiya ODAYA²⁾, Koichi SHIRAKAWA³⁾, Rio KURODA⁴⁾, Yoshiyuki KANDA⁵⁾, Michiko SHIIHARA⁴⁾, Shota SAWAMOTO⁴⁾, Hayato MORI⁴⁾ and Kazuyuki KUWABARA¹⁾

¹⁾Museum and Institute of Natural History, Chiba
955-2, Aoba-cho, Chuo-ku, Chiba, 260-8682, Japan

²⁾Abiko City Museum of Birds

234 Konoyama, Abiko, 270-1145, Japan.

³⁾Chiba branch, Wild Bird Society of Japan

2-2-11-105, Kaijin, Funabashi, 273-0021, Japan

⁴⁾Independent

⁵⁾JACS Boat License School

5-30-8, Higashi-Koiwa, Edogawa-ku, Tokyo, 133-0522, Japan

* E-mail: k_hirata@chiba-muse.or.jp

There have been no records of the red-footed booby, *Sula sula*, accompanied by detailed observation information, in Chiba Prefecture. This paper reports on four protected cases (four individuals) and 10 observed cases (11 individuals) of the species until 2021. Ten of the 14 cases were recorded since 2018, suggesting that the frequency of arrivals of the species in Chiba Prefecture is increasing in recent years. Thirteen cases were recorded at the inner part of Tokyo Bay. Four cases (four individuals) were records of adult birds, which are rare in high latitudinal areas. Six individuals of five cases represent a brown morph, which has been rarely observed in Japan. One individual represents a black-tailed white morph, which have never been reported in Japan. The species is usually solitary, but in this study, a rare example of the occurrence of multiple individuals (two individuals) is recorded.

Key words: accidental visitor, pelagic seabird, *Sula sula*, Tokyo Bay